



○ 大気中の温室効果ガス濃度が観測史上最高を記録

気象庁は10月16日、世界気象機関(WMO)温室効果ガス世界資料センターが2024年までの大気中における世界の温室効果ガス濃度を解析した結果を公表しました。これによると、主要な温室効果ガス(二酸化炭素CO₂、メタンCH₄、一酸化二窒素N₂O)の濃度は引き続き増加しており、2024年度の二酸化炭素の世界平均濃度が423.9±0.2ppmとなるなど、いずれも観測史上最高を記録しています。特に二酸化炭素濃度は、前年からの増加量が観測史上最大の3.5ppmとなりました。その主な要因は、2023年春から2024年春に発生したエルニーニョ現象による高温と乾燥により生態系の炭素吸収量が減少したことと、干ばつによる大規模火災により大気中への二酸化炭素の排出量が増加したことによるためとしています。

のことから、今後、気候変動はさらに加速していくことが懸念されます。気候変動に一人一人が適応していくことは、避けて通れない重要な課題です。

○ 家庭や個人でできる適応アクション

本号では、国立環境研究所気候変動適応センターが実施する「#適応しよう」キャンペーンから、現在及び将来の気候変動の影響に備え、快適に暮らしていくための「適応アクション」のうち、いくつかの取組を紹介します。ぜひ取り組んでみてください。

◆ アクション02「サステナブルファッショントリートメント」

国内に供給される衣類の原材料調達から製造段

階までに排出される二酸化炭素は、服1着あたりに換算すると約25.5kgになります。服を購入する際は、保温性や通気性などを意識し、気温の変化に対応しやすく、着回ししやすい服を選ぶことを心がけ、持続可能なファッショントリートメントを取り入れましょう。

アクションの具体例

- 気候に合わせやすく、着回ししやすい服を選ぶ
- 長く着る
- 古着、リユースを楽しむなど

02 サステナブル
ファッショントリートメント



◆ アクション07「エネルギーを効率よく使おう」

近年、気候変動によって極端な気象が増えています。窓に断熱材を貼るなどして家の断熱性を高めることで、室内の温度を安定させ、高齢者や子どもが低体温症や熱中症になるリスクを軽減することができます。また、結果的に、エネルギー消費が減ることで、温室効果ガスの排出も抑えられます。

アクションの具体例

- 熱の出入りが大きい窓に断熱材を貼る
- 遮光・遮熱カーテンを取り入れるなど

07 エネルギーを
効率よく使おう



紹介した例を参考に、ご自身のライフスタイルに合わせて気候変動に適応しましょう。

愛知県気候変動適応センター

(環境調査センター 企画情報部)

電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)



愛知県気候変動適応センターだよりのバックナンバーはこちら
<https://www.pref.aichi.jp/site/ailccac/tekiou-dayori.html>

